



日議総委発第 13 号
令和 7 年 11 月 21 日

日高市議会議長 金子 博 様

総務福祉常任委員会
委員長 新井 均

所管事務調査報告書

総務福祉常任委員会は、下記のとおり視察研修を実施したので、その概要について報告いたします。

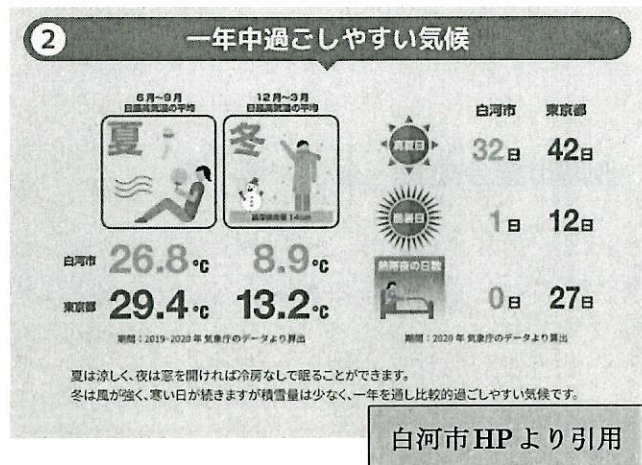
記

- 1 実施年月日 令和 7 年 10 月 27 日（月）～10 月 28 日（火）
- 2 調査事項
 - (1) 福島県白河市
 - ・健康づくり事業について
 - ・終活事業について
 - (2) 千葉県松戸市
 - ・自治会のデジタル化について
- 3 派遣委員等
 - (1) 委員 新井 均 横尾貴文 城所美奈子 小谷野五成
成田奈緒子 金子 博 三木伸也 大澤博行
 - (2) 随行者 木村郁哉
- 4 視察地の概要
 - (1) 福島県白河市
 - ・人口：56,455 世帯数：25,500（令和 7 年 10 月 1 日現在）白河市役所作成のホームページの冒頭に次の内容の記載がある。
 - ①白河市は、古くから交通の要として発展してきた歴史と文化が息づく高原都市である。
 - ②首都圏へのアクセスが良く、豊富な水と肥沃な大地に恵まれている。
 - ③ご当地グルメとスキーやゴルフ、キャンプなどのアクティビティーを楽しむことができる。白河市の人口や、白河市作成の紹介を見ると、日高市に通ずるところが数

多く見られる。

白河市の移住促進事業は、前記①～③の市の特徴を、優位性として強く打ち出している。

東京から70分（新幹線利用）の地の利や、右図が示すように酷暑日が1日、熱帯夜が0日などの過ごしやすさを挙げている。



このほか、温泉やゴルフ・スキー場などのアクティビティー施設の充実や、55㎡あたりの家賃が、東京は171,000円であるのに対して白河市は73,000円であることを示し、福島県内での住みやすさランキングが1位であるとアピールしている。

短い時間の滞在ではあったが、自然の中に街並みが整然と並び、人々も穏やかであった。白河市は住みやすい街であることがうかがえた。

(2) 千葉県松戸市

・人口：501,080

世帯数：247,490（令和7年10月1日現在）

松戸市は人口が増え続けている自治体である。これは、都心からのアクセスの良さと、子育て環境の充実からきている。令和6年に人口が50万人を超えた。50万人目の市民となった新生児の出生届受付の際にイベントを行ったと、訪問時に伺った。

市街地は平地が多く、徒歩や自転車での移動が容易であるように見えた。松戸市は人口や一般会計予算、市役所の職員数など全てが、日高市のおおよそ10倍の市である。埼玉県の新郷市と隣接しており、埼玉県とのかわりも深い。

水戸藩最後の藩主である徳川昭武由来の「戸定邸（とじょうてい）」や「矢切の渡し」といった有名観光地を持ち、ネギの生産量が国内トップクラスでもある。

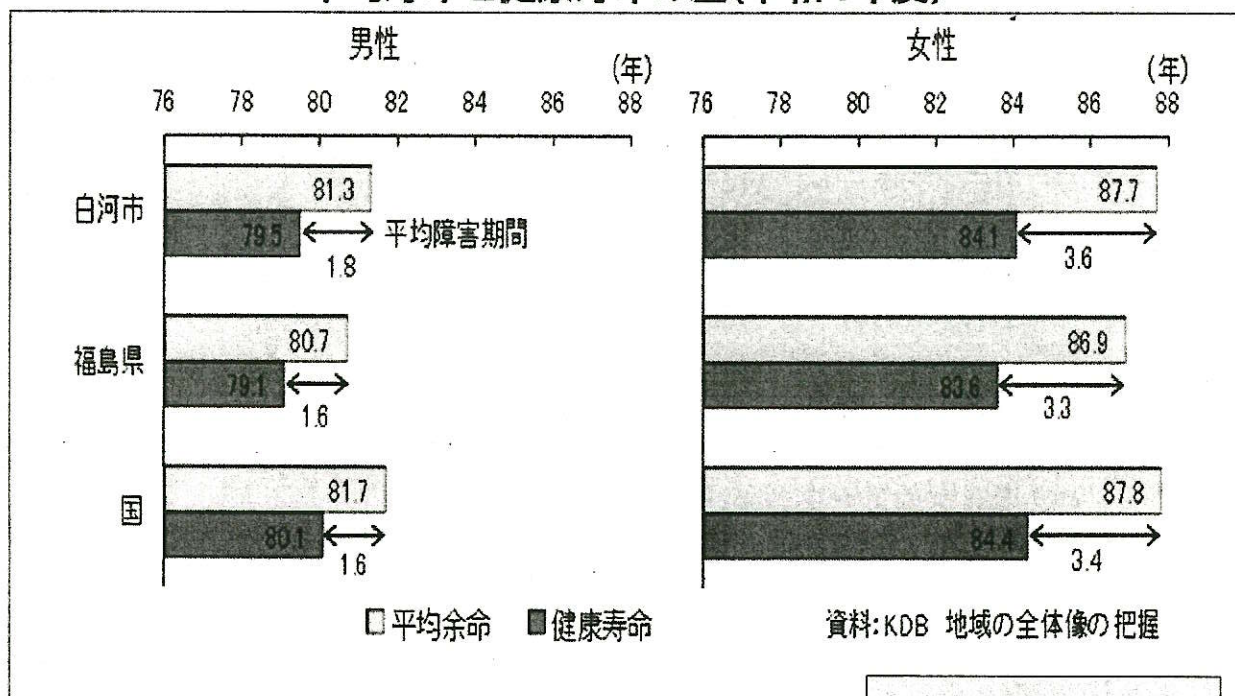
企業や住民が増え続け、観光名所を持ち、農業の名産地でもある松戸市は、財政的にも安定している。一例として、令和6年度末時点で市税の収入が762億円に対して公債費が62億円であり、これは市税収入の8.1%にすぎない。平日昼間の訪問であったが、様々な世代の方々が、活力を持って暮らしている様子がうかがえた。

5 視察内容

(1) - 1 福島県白河市「健康づくり事業」について

市民の健康に関する動向①

平均寿命と健康寿命の差(令和4年度)



視察当日の資料から転写

視察の目的

・上の表は、令和4年度の、平均寿命・健康寿命の差を、白河市、福島県、国で比較したものである。福島県は国と比べて、平均寿命・健康寿命とも劣っている。白河市は、福島県内の中では良い数値であるものの、国と比べるとやや劣っている。白河市では、この課題解決を目指し、健康づくり事業を展開し始めた。日高市では、高齢化率は県平均を上回っているものの、要介護・要支援率は県平均を下回っている。これは「元気な高齢者が多い」と読むことが出来るが、高齢化率が高い以上、近い将来には白河市と同じ課題に直面すると考えておかなければならない。

また、同様の理由から「終活」について行政を挙げて取り組む白河市は学ぶべきところが多い。

日高市のため、先進事例に学ぶ意味での視察研修を行った。

① 白河市「健康づくり事業」の骨格は「いきいき健康しらかわ 21 計画」
(白河市健康増進計画・自殺対策計画)

この計画は、白河市行動計画－アジェンダ 2027－の保健福祉部目標の部門別計画として位置づけられている。

計画の期間は令和 6 年度（2024 年度）から令和 17 年度（2035 年度）までの 12 年間である。今回の視察では、取り組み始めた健康計画について、計画策定や立ち上げの課題等について研修した。

計画の基本理念は、「子どもから高齢者まで、安全・安心にいきいきと健やかに暮らすことができるまち」であり、計画の基本目標は「健康寿命の延伸」「健康格差の縮小」である。

②白河市血糖値チェックで健康づくり事業

この事業は、福島県の「市町村先駆的民間プログラム活用事業」を取り入れて進めている。このプログラムは、民間企業のノウハウを活用し、市町村の既存事業を改善し、市民の生活習慣病予防と改善を目指すものである。

白河市では、日本生命の「血糖モニタリング」サービスである、「じぶんで血糖チェック」を採用していた。このサービスを利用する利点をまとめると、次のア～ウがあげられる。

ア：最新の機器を使い「血糖値変動」をチェックできる

イ：市民への説明やサポートを、アプリを通じて県が支援してくれる

ウ：参加者募集チラシづくり等を、企業が支援してくれる

***成果** 令和 6 年度「じぶんで血糖チェック」結果報告書から
以下の表の通り、BMI 平均値・適正体重等の改善が見られていた。

【事業評価(実績・効果)】 アウトカム

視察当日の資料から転写

BMI値の改善者率

【BMI平均値】

	実施前	実施後	増減
白河市	22.66	22.43	-0.23
参加市町村平均	23.66	23.61	-0.05

【BMI適正体重者および肥満者の割合】

	人数 (※)	適正体重者		肥満者	
		実施前	実施後	実施前	実施後
白河市	28名	22名 (78.6%)	24名 (85.7%)	5名 (17.9%)	3名 (10.7%)
参加市町村 平均	188名	117名 (62.2%)	121名 (64.4%)	62名 (33.0%)	58名 (30.9%)

※第1回セミナーに参加、かつ事業終了後アンケートに回答いただいた人数で集計

③白河市健康ポイント事業

この事業は、株式会社タニタヘルスリンクとの包括連携協定によってつくられる市民の健康増進事業である。市民は事前説明会時に参加費の1,000円を支払い参加する。

今年度は6月1日～12月31日までの7か月間実施し、ポイントに応じた特典を市民は得られる。本事業の利点を以下にまとめる。

ア：活動量計（右画像）やスマホア

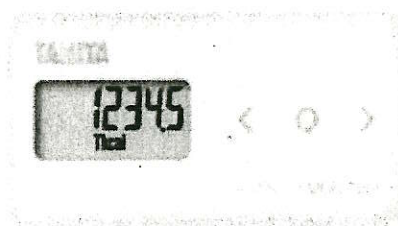
プリを使って計測したデータを専門企業が分析するため、事業の精度が高まる

イ：健康寿命の延伸と医療介護費用の削減の双方を目指すことができる

ウ：事業に係る広報チラシ等の作成を企業の支援を受けて実施できる

エ：入会ポイント等、様々な効果的な取り組みの発案支援を企業からもらえる

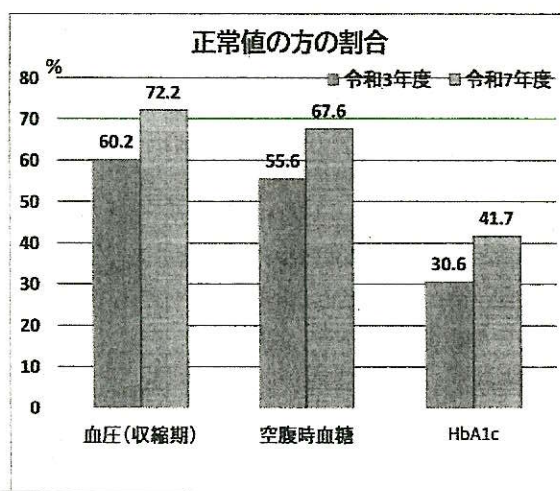
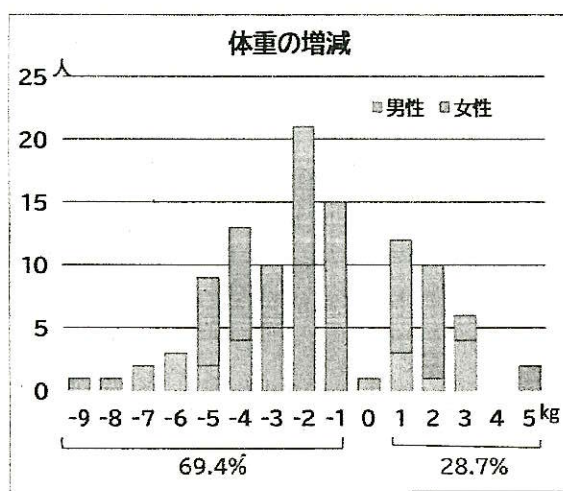
オ：期間中に2000ポイント以上獲得すると、最大5000円分のQUOカードや楽天ポイントと交換でき、市民の健康増進意欲が高まる



タニタ製活動量計 AM-150

視察当日の資料から転写

***成果** 令和3年度から7年度まで継続している方で健康データがある方（市の検診を受けている方）108名で検証した結果、以下のように良い成果が見られている。



視察当日の資料から転写

④白河市健診の受診率をあげるための取り組み

健診率を上げることは、日高市の課題でもある。白河市では以下の取組を実践していた。

- ア：生活習慣病・特定健診に係る情報を広報に掲載している
- イ：健診未受診者に受診勧奨のハガキを送付している
- ウ：休日健診や追加健診を設定している
- エ：健診予約システムのデジタル化を進めている
- オ：個別健診の医療機関数を増やしている
- カ：SNS を活用した若年層未受診者への健診勧奨を行っている
- キ：3年以上の未受診者には、訪問による受診勧奨を行っている

⑤白河市生活習慣病予防のための取組

生活習慣病予防の取組として、白河市では以下の点に注力していた。

- ア：へる塩プロジェクト（減塩プロジェクト）
- イ：スリムアッププロジェクト
- ウ：禁煙応援プロジェクト
- エ：いきいき健康相談チャレンジ相談会
- オ：腎臓病予防講演会
- カ：特定保健指導（国保事業）
- キ：重症化予防事業（国保事業）

(1)－2 福島県白河市「終活事業」について

白河市では、身寄りのない高齢者（一人暮らしの高齢者のみの世帯）が7,478世帯ある。身寄りのない高齢者世帯は、20年前の2倍以上である。

そして、この身寄りのない高齢者世帯の方は次の不安を抱えている。

- ア：万が一の時、自分の思いが伝わるかが不安である
- イ：支援者に正確な情報が伝わらず「円滑な支援が受けられないのではないか」と考えると不安である

これは、日高市にも通ずる課題である。白河市では、課題解決のために「終活」に着目し、行政支援を進めている。

①白河市の「終活」について

- ・「終活」とは、人生の最期に向けて、自身の財産や医療・介護、葬儀、お墓などに関する準備を進めておくこと
- ・「終活」の準備を進めることで、自分らしく安心した生活が送れると

ともに、家族の負担軽減や円滑な支援につながる

＊高齢福祉課の担当者は、終活は「自身のため」「家族のため」両面から極めて重要と考える様子うかがえた。

②白河市「未来ノート」

白河市では、いわゆるエンディングノートを「未来ノート」と名付け、終活の助けとしていた。この未来ノートの概要は以下の通りである。

ア：市内の高齢者（65歳以上）に無料で配っている

イ：ノートの中に広告を載せることで、無料で市民に配ることが出来る

ウ：ノートに書ける内容は以下の通り

- ・これまでの自分の事
- ・これからやりたいこと
- ・もしも介護が必要になったら
- ・渡したいもの、贈りたいもの
- ・自分の財産
- ・親族関係図
- ・もしも病気になったら
- ・財産管理をお願いしたい人
- ・関係する人の連絡先
- ・葬儀、墓、遺言のこと

エ：未来ノートには法的拘束力はない

オ：法的拘束力がないから自分の思いを書きやすい

視察当日の資料から転写

考えてみましょう 話し合ってみましょう

白河市 未来ノート

名前

書き始めた時期

年・月・日

白河市 × 株式会社 サイネックス

③わたしの終活登録事業

終活情報を市に登録しておき、意思表示が困難となった場合や死亡時に

必要な方に開示する事業を行っている。
この開示について、申請できる人と開示の内容は決まっている。

12) 申請できる人・開示内容									
登録情報	申請ができる者			登録情報の開示先					
	本人	親族	成年後見人	警察・消防	医療機関	福祉機関	照会可能な登録者 3親等以内の親族	左記以外	
1 緊急連絡先	○	○	○	○	○	○	○	○	
2 本籍地	○	○	○	○	×	○	○	×	
3 かかりつけ医・アレルギー等	○	○	○	○	○	○	○	○	
4 預貯金・保険等情報	○	×	○	×	×	×	○	×	
5 未来ノートの保管場所	○	×	×	×	×	×	○	×	
6 リビングウィルの保管場所	○	×	×	○	○	○	○	○	
7 臓器提供の意思	○	×	×	○	○	○	○	○	
8 献体の登録先	○	○	○	○	○	○	○	○	
9 葬儀や通品整理の生前契約先	○	○	○	○	○	○	○	○	
10 お墓の所在地	○	○	○	×	×	×	○	○	
11 遺言書の有無・保管場所	○	×	×	×	×	×	○	×	

視察当日の資料から転写

(2) 千葉県松戸市「自治会のデジタル化」について

視察の目的

自治会への加入率が低下傾向にあることが、日高市議会の一般質問でも懸念材料として取り上げられている。自治会離れを食い止めようと、様々な施策を行う自治体は多い。松戸市は、現在人口が増え続けている。これは喜ばしいことであるが、新しく市民となられた方の自治会加入率の低さには懸念を持っている。

(松戸市の自治会加入率：約 65%、日高市の自治会加入率：約 77%)

松戸市は、自治会のデジタル化を促進し、自治会加入率の向上を目指している。この取り組みを学び、日高市の自治会加入率低下防止策の一助とすることをねらい、松戸市を視察した。

①松戸市が自治会デジタル化事業を始めたきっかけ（経緯を箇条書きで示す）

ア：コロナ禍で対面不要のコミュニケーションツールが必要と認識した

イ：コロナが明けたが、自治会役員の高齢化・固定化が年々進み、安定した自治会運営の方法を考える必要が出てきた

ウ：町内活動をデジタル化できないかと町会・自治会から意見をもらい、模索をはじめた

エ：松戸市は令和 6 年 10 月以降、市の公式ラインが見直されることが決まっており、この機を活用できないかと考えた

オ：LINE から利用できる電子回覧板「自治会サポ！」を導入することを決めた

カ：デジタル化は町会・自治会に予算的負担をかけるため、デジタル化に係る機器導入を行う町会・自治会の支援が必要と考えた

キ：町会・自治会へのデジタル化促進補助金を令和 6 年度より創設した

*公式 LINE に着目したのは、LINE は「年代を問わず市民がなじんでいるため」との補足説明があった

②松戸市電子回覧板「自治会サポ！」の導入について

「多くの市民がなじみやすい・個別にアプリをインストールする必要がない」とのメリットに期待して、LINE と連携した電子回覧板事業を開始した。

「自治会サポ！」は、町会・自治会のお知らせやコミュニケーションをスマートフォンで簡単にできるツールとして開発した。会員同士のコミュニケーションや、グループ（防災部・子ども会等）の情報共有もできる。

③町会・自治会活動デジタル化促進補金について

デジタル化への必要経費やランニングコストの補助を松戸市独自で行っている。補助の詳細は以下の通りであった。

補助の詳細) 補助上限額…1 団体当たり 100,000 円

補助率…イニシャルコスト 10/10 ランニングコスト 5/10

※同一事業での補助は最大3年度まで

費目	補助率	対象経費例	デジタル化の取組例
物品・備品購入費	10/10	Web カメラ・プロジェクタ・スクリーン	オンライン会議の実施
環境整備費		Wi-Fi ルーター等のネット環境開設のインターネット回線工事	集会所等の会員向けフリースポットとして利用開放
報酬費		町会員向け SNS 講習	デジタル化講習会の実施
維持管理費	5/10	・ホームページ作成支援 サービス等継続利用料 ・インターネット回線の月額利用料	・町会ホームページの運営 ・集会所等の会員向けフリースポットとして利用開放

視察当日の資料から転写

④個人情報保護やセキュリティー確保について

大きく分けて3つあることが、説明から分かった。

ア：個人情報保護法を順守する LINE の運営会社を選定し、利用者は2段階認証を行う必要がある。(運営会社：LINE ヤフー株式会社)

イ：システムを提供するベンダーは、自社所有のデータセンターを持っている。プロフィール情報等はベンダー所有のデータセンターに保管され LINE 側には送信されない。(ベンダー：福井システムズ)

ウ：町会・自治会会員の登録は、町会長などの管理者が承認を行うことで完了する。外部侵入のリスクを低減している。

⑤デジタルに不慣れな住民への対応・対策について

セキュリティーを高めると、認証操作が複雑になるなど、デジタルに不慣れな方にとって敷居が高くなる。この解決のため松戸市では、348 ある自治会に委託会社のスタッフを派遣し、出張サポートを行っている。この詳細を、次の表で示す。

視察当日の資料から転写

参考)R7 年度における業務時間等

出張サポート業務	受付時間	月曜から金曜 14時から 20時まで
		土日祝日 9時から 17時まで
	予約	コールセンターでの要予約
	※集会所がない町会でも市民センター等で開催可	
コールセンター業務	受付時間	月曜から金曜 9時から 19時まで
		※土日祝日及び年末年始を除く

⑥回覧板のデジタル化と紙媒体の併用について

どの自治体でも同様と考えるが、デジタル化を歓迎する住民もいれば、紙媒体を歓迎する住民もいる。日高市で、回覧板のデジタル化を進めれば必ずこの課題に行きあたる。これは、松戸市でも同様であった。デジタル化を進めつつ、紙媒体での広報活動も行っていた。現状として、全てデジタル回覧板化されているマンションがある一方、デジタル化を行わず、紙媒体のみの自治会も存在した。今後さらに松戸市の状況を見届ける必要がある。

⑦事業の財源について

自治会のデジタル化には大きな経費が必要である。松戸市の人口は日高市の10倍である。以下松戸市の事業に係る予算・決算額を示すが、この経費は「松戸市の1割の人口の日高市だから、経費も1割で済む」は成り立たない。おそらく50%~60%の経費が必要と考える。

令和6年度予算額 21,628,000円
令和6年度決算額 14,738,108円

視察当日の資料から転写

○事業別内訳

(円)

①松戸市電子回覧板「自治会サポ！」導入費・賃貸借料			
予算額	2,321,000	決算額	1,904,408
(国庫支出金	1,160,000)	(国庫支出金	952,204)
※デジタル田園都市国家構想交付金			
内訳)		内訳)	
・初期導入費用	1,265,000	・初期導入費用	1,265,000
・システム月額使用料	1,056,000	・システム月額使用料	639,408
②町会・自治会活動デジタル化促進補助金			
予算額	5,000,000	決算額	3,021,700
③町会・自治会電子回覧板導入支援出張サポート委託料			
予算額	14,307,000	決算額	9,812,000

以上のとおり報告いたします。